

## 2024年（令和六年） 年頭所感

新春を迎え組合員の皆様、業界に携わる皆様に心からのご挨拶を申し上げます。

さて昨年を振り返りますと新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりアフターコロナとして経済や社会が大きく変化していく中で、私たちものづくりに携わる中小企業は多くの課題に直面しました。自動車産業をはじめとする主要な顧客の生産調整や需要減少に直面し、厳しい経営環境に置かれました。さらに、原材料やエネルギー費の高騰、為替の乱高下やそれに影響する貿易など外部要因による不確実性も高まりました。このような中で、組合員企業の多くはコスト上昇による価格転嫁に苦慮しつつ、年々高まる品質やコストの要求に対し技術力の向上や設備投資、様々な生産コストの見直しなど日々知恵を絞り経営、雇用の安定化に努めてまいりました。しかしメディアなどで報道される経済指標と私たちが実感する経営状況の乖離は大きく、組合員である中小企業の経営者は常に不安を抱いていた年であったと感じています。

年は変わっても引き続き直面する課題は決して少なくありません。世界中で頻発する激しさを増す自然災害や戦争による関係諸国の情勢不安、アジア諸国のカントリーリスク、国内では人口減少や高齢化が進み後継者問題や人材不足などが深刻化しています。私たち中小企業は、これら企業存続に大きく影響する重要な課題に対してどのように対応していくべきか、真剣に考え早急に対応していく必要があります。特に人材は企業において重要な財産であり、人材育成や教育は経営の重要な要素です。中小企業として経営資源が限られる中でも人材不足に対応するために、労働環境の改善や働き方改革、多様な人材の活用など様々な取り組みを行っていく必要があります。そしてDXや生成AIなど身近となったデジタル技術の進化が年々加速度を増しているなかでそれらをどう導入し活用していくのか、それによってこの先の経営戦略や業績にどう影響していくのかを人材活用、設備投資など現在の経営資源と併せて見極めていく必要もあります。

このような複雑化した厳しい経営環境において当組合はセミナーや勉強会を開催したりすることで経営や技術の向上に寄与できるよう、また懇親を目的とした福利厚生事業を開催し組合員同士の繋がりを深め気軽に話し合えることのできる場を作ってまいりました。併せて組合員以外の業界団体各位とも連携して情報交換や懇親を企画し、見識を広めて少しでも業界の発展に貢献できるよう努めてまいりました。これらの活動は組合組織の価値創造と相互扶助の具体的な表れであり、今後も継続していく必要があります。そのためには、組合員の皆様からのご意見やご提案を積極的にお聞きし、また業界団体や関係機関とも連携を深め交流していくことで協同組合という組織の価値創造に努めてまいります。

新年を迎えたこの機会に改めて協同組合としての使命や目標を見つめ直し、そして次世代に繋げていけるよう新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っております。皆様におかれましては、組合活動への更なるご理解とご協力をお願い申し上げますとともにご健康とご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

東部ファスナー協同組合 理事長 望月紀人